

科目名	関係法規・制度	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	2年生通年	担当者	西/山本	時間数	30時間	1単位
教育目標	美容師の資格は法律により規定され、美容師でなければ美容の業を行うことはできない。このため美容師に必要な法知識を習得する必要がある。この科目では、法制度の概要からわが国の衛生行政について学ぶとともに、美容師法の要求する美容師・美容所についての規定を理解する。また、美容師について必要とされる美容師法以外の関係法規についても知識を深めることとする。					
授業概要	美容師法と美容の業務に関わる関係法規 美容師が守るべき法律や美容所設置基準などを学びます。					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	法制度の概要	法の役割・法とは何か・法の実際				
3～4	衛生法規の概要	衛生法規の意義・分類・概観				
5～6	衛生行政の概要	国と地方の行政・衛生行政の意義と歴史・衛生行政の動向				
7～8	衛生行政の種類と行政機関	衛生行政のしくみ・保健所の役割と機構				
9～10	理美容師法	美容師法の目的と歴史・美容師法の構成				
11～12	用具の定義	美容・美容師・美容所				
13～14	美容師	美容師養成制度・美容師試験・免許と登録				
15～16	美容師	管理美容師・業務に従事する美容師の義務				
17～18	美容所	美容所の開設				
19～20	美容所	美容所開設者が講ずべき衛生措置・美容所以外での業務				
21～22	立入検査	立入検査・環境衛生監視員				
23～24	行政処分	行政処分・行政処分手続き・審査請求・異議申立て				
25～26	処罰	罰則				
27～28	関係法規	生衛法・地域保健法				
29～30	関係法規・まとめ	感染症法・労働基準法・消費者基本法・美容師法の課題				
到達目標	国家試験合格	評価方法	期末試験			

科目名	衛生管理①(衛生管理技術)	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	2年生通年	担当者	山本・西	時間数	90時間	3単位
教育目標	我々の生活環境には、無数の微生物が棲息している。これらの微生物が常に恐ろしい感染症の原因となるわけではないが、環境状態によっては重い感染症の発病に結びつくことがある。これらの微生物を取り除く方法には滅菌・消毒の理論と実践を総合的に理解させる。					
授業概要	衛生管理技術では、物理的な方法（熱・紫外線）、化学的方法（種々の消毒薬）の基本的な手技を体得することを目的とする					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	消毒法概論	メスピペット・メスシリンダー等の使い方				
3～4	濃度方法	濃度の概説（希釈、濃度の表し方）				
5～6	消毒薬	アルコール系				
7～8		逆性石鹼（塩化ベンザルコニウム）				
9～10		グルコン酸クロルヘキシジン				
11～12		両性界面活性剤				
13～14		次亜塩素酸ナトリウム				
15～16		その他の消毒薬				
17～18	物理的消毒	紫外線消毒器等				
19～20	顕微鏡	顕微鏡の操作・細菌の観察				
21～22	感染症対策	感染症予防				
23～24						
25～26	国家試験対策	試験対策				
27～28						
29～30	試験	試験				
到達目標	国家試験合格	評価方法	期末試験			

科目名	衛生管理②(公衆衛生)	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	2年生通年	担当者	山本・西	時間数	90時間	3単位
教育目標	公衆衛生学を通し、人間の美と健康に関わる職業人として、人々の健康づくりに寄与出来る知識を学び（特に美容師と公衆衛生の関係を学ぶ）、健康への理解を深める。					
授業概要	公衆衛生の歴史・現状を学習し将来の方向性を考察する、美容師の保健についても学習する。					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	健康	健康と公衆衛生				
3～4	衛生学	衛生学、公衆衛生の歴史と意義				
5～6	公衆衛生の分野	健康の保持・増進と休息、美容師と保健所				
7～8	法律の解釈	関連法と条例の解釈と変遷				
9～10	公衆衛生行政	衛生法規と行政機構、WHO				
11～12	栄養と食物	栄養素と役割				
13～14		各年齢の栄養摂取量と基礎代謝				
15～16	食品衛生	食中毒の種類と原因と予防、美容師の消毒				
17～18	衛生統計	平均寿命、生命表、疫学				
19～20	母子保健	母子保健と学校保健				
21～22	成人老人保健	生活習慣病、産業保健、老人保健				
23～24	環境衛生	採光と照明、飲料水、公害				
25～26		水質汚濁、大気汚染、廃棄物、地球温暖化				
27～28	精神保健	精神保健、障害者自立支援、美容所の環境衛生				
29～30	まとめ					
到達目標	国家試験合格	評価方法	期末試験			

科目名	衛生管理③(感染症)	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	2年生通年	担当者	山本・西	時間数	90時間	3単位
教育目標	感染症の原因である微生物の構造・生態を理解することにより、感染症罹患者およびその生活環境に対して適切な対処方法を選択出来るようにする。加えて、新興感染症・再興感染症に対しても十分な知識の理解を深める。これらの理解に基づき、より安全・適切な接客方法を考えられるようにする。					
授業概要	微生物の種類・構造・特徴・生態について学ぶ。感染症の機序・流行様式・防疫について学ぶ。感染症予防の方法を学ぶ。実際に自分自身で出来る予防方法を考察する。					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	感染症予防法規	感染症法				
3～4	感染症の基礎知識（1）	感染症の種類、生物種による微生物の寄生・感染				
5～6	感染症の基礎知識（2）	微生物の種類				
7～8	感染症の基礎知識（3）	微生物の発育と発育曲線				
9～10	感染症の基礎知識（4）	微生物の生態				
11～12	感染症の基礎知識（5）	微生物の増殖・分裂				
13～14	疫学	疫学方法と基本的な疫学的な考え方				
15～16	感染症予防	感染症の感染要因				
17～18	感染症予防方法	防疫の原則・実際				
19～20	予防接種	感受性と予防接種				
21～22	消化器系感染症	細菌性赤痢				
23～24	呼吸器系感染症	結核				
25～26	性行為感染症	エイズ、クラミジア、淋病				
27～28	新興感染症	ラッサ熱、エボラ出血熱、BSE				
29～30	美容所における感染症の実際	美容所の感染症予防				
到達目標	国家試験合格	評価方法	期末試験			

科目名	保健(皮膚科学Ⅰ)	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	1年生通年	担当者	山本・西・松本・上原	時間数	90時間	3単位
教育目標	皮膚は身体の表面を覆い、絶えず外部環境からの刺激にさらされている。そのため、内部諸臓器の保護のみでなく、外界からの情報の感知、身体適応など重要で多彩な役割を果たしている。学生が将来美容界において指導的な役割を担うため、美と健康に関わる皮膚の科学的な正しい知識と技術を習得し、これを活用し実践する能力を身につける。					
授業概要	テキストに準拠し、皮膚およびその附属器官の構造、皮膚の循環系と血管の解剖と生理、皮膚と附属器官の一般的生理機能、皮膚と附属器官の保健ならびに疾病の概要等について学習する。Video 映像等を駆使して視覚的に理解を深める。					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	I 皮膚の構造 (1)	①皮膚の表面 ②皮膚の断面				
3～4	I 皮膚の構造 (2)	③表皮 ④表皮と真皮の境				
5～6	I 皮膚の構造 (3)	⑤真皮 ⑥皮下組織 ⑦皮膚の部位差ならびに人種差				
7～8	II 皮膚附属器官の構造 (1)	①毛 (毛の構造、型と生長周期、型の変化、毛の生長等)				
9～10	II 皮膚附属器官の構造 (2)	②脂腺 (皮脂腺) ③汗腺 ④爪				
11～12	III 皮膚の循環系と神経系	①皮膚の血管 ②皮膚のリンパ管 ③皮膚の神経				
13～14	IV 皮膚と附属器官の生理機能 (1)	①対外保護作用 ②体温調節機能 ③知覚作用と皮膚反射				
15～16	IV 皮膚と附属器官の生理機能 (2)	④分泌排泄作用 ⑤呼吸作用 ⑥吸収作用 ⑦貯蔵作用				
17～18	IV 皮膚と附属器官の生理機能 (3)	⑧免疫・解毒・排除作用 ⑨ビタミンD形成作用 ⑩表情作用 ⑪再生作用 ⑫毛のはたらき ⑬爪のはたらき				
19～20	V 皮膚と附属器官の保健 (1)	①皮膚と全身状態 ②皮膚と精神 ③皮膚と栄養				
21～22	V 皮膚と附属器官の保健 (2)	④皮膚とし好品 ⑤皮膚と環境 ⑥皮膚と体内病変				
23～24	学習のまとめ	質疑応答、演習試験その他				
到達目標	国家試験合格	評価方法	定期試験			

科目名	保健(皮膚科学Ⅱ)	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	1年生通年	担当者	山本・西・松本・上原	時間数	90時間	3単位
教育目標	皮膚は身体の表面を覆い、絶えず外部環境からの刺激にさらされている。そのため、内部諸臓器の保護のみでなく、外界からの情報の感知、身体適応など重要で多彩な役割を果たしている。学生が将来美容界において指導的な役割を担うため、美と健康に関わる皮膚の科学的な正しい知識と技術を習得し、これを活用し実践する能力を身につける。					
授業概要	テキストに準拠し、皮膚およびその附属器官の構造、皮膚の循環系と血管の解剖と生理、皮膚と附属器官の一般的生理機能、皮膚と附属器官の保健、皮膚と附属器官の疾病の概要等について学習する。映像等を使用して視覚的に理解を深める。					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	V 皮膚と附属器官の保健 (3)	①皮膚の保護と手入れ				
3～4	V 皮膚と附属器官の保健 (4)	②毛の保護と手入れ ③爪の保護と手入れ ④リラックスによるスキンケア				
5～6	VI 皮膚と附属器官の疾患 (1)	①皮膚の異常とその種類 ②皮膚疾患の原因 ③皮膚疾患の治療法				
7～8	VI 皮膚と附属器官の疾患 (2)	④皮膚炎と湿疹・薬疹・蕁麻疹 ⑤口唇の疾患				
9～10	VI 皮膚と附属器官の疾患 (3)	⑥温熱・寒冷による皮膚障害 ⑦角化異常による皮膚障害				
11～12	VI 皮膚と附属器官の疾患 (4)	⑧色素異常による皮膚疾患 ⑨血管腫 (アカアザ) ⑩下肢静脈瘤				
13～14	VI 皮膚と附属器官の疾患 (5)	⑪分泌異常による皮膚疾患				
15～16	VI 皮膚と附属器官の疾患 (6)	⑫化膿菌による皮膚疾患 ⑬ウイルスによる皮膚疾患				
17～18	VI 皮膚と附属器官の疾患 (7)	⑭真菌による皮膚疾患 ⑮動物による皮膚疾患 ⑯感染症の皮膚疾患の予防				
19～20	VI 皮膚と附属器官の疾患 (8)	⑰毛と爪の疾患 ⑱皮膚の腫瘍				
21～22	まとめ	質疑応答、演習試験その他				
到達目標	国家試験合格	評価方法	定期試験			

科目名	保健(人体の構造と機能Ⅰ)	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	1年生通年	担当者	山本・西・松本・上原	時間数	90時間	3単位
教育目標	生物体の構成は、生物の基本構成単位である細胞の集まりであるが、それらから構成されているそれぞれの器官・臓器の寄せ集めだけではない。それぞれの形態は、円盤状の血球や樹枝状の神経細胞などの形やそれ独特の機能に則した形をしており、それぞれの細胞が有機的に組み合せて合理的な形を成している。理容・美容を学ぶ者にとって、人体の構造や器官の構成を理解した上での健康な肌、皮膚を理解することは必須である。人のからだの器官や臓器とそれらの機能等を学び、次の生理学への理解の導入としても、理美容科学の基礎知識を養う事を目標とする。					
授業概要	Ⅰ：序論－健康な身体、身体各部の名称－Ⅱ：細胞と体液Ⅲ：骨格、筋、神経細胞Ⅳ：神経と感覚器官のはたらきⅤ：循環器官とそのはたらきⅥ：呼吸器官とそのはたらき					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	Ⅰ：序論 健康な身体	人体の各部の位置と構成				
3～4	Ⅱ：細胞と体液	基本単位としての細胞と構成、人体の皮膚や器官構成と体液				
5～6		皮膚ならびに体液－細胞内液と細胞外液－				
7～8	Ⅲ：骨格・筋・運動 横紋筋と平滑筋	硬骨とその名称、種類、形と可動連結、不動連結、筋と腱、骨格筋の働き				
9～10		消化器官の筋、表情運動と顔面筋、上肢と下肢、胸部と背部の筋				
11～12	Ⅳ：神経と感覚器官	神経細胞、中枢神経、末梢神経と脊髄、体性神経と自律神経				
13～14		交感神経と副交感神経－感覚器官－視覚、聴覚、味覚、嗅覚－				
15～16	循環器系	皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚、心臓－左心室と左心房、右心室と右心房				
17～18		動脈、静脈と門脈循環－血液－赤血球、白血球、血小板と血漿－				
19～20	呼吸器とそのはたらき	鼻孔、咽頭、喉頭、気管と気管支				
21～22		呼吸運動－肺の機能／炭酸ガスと酸素とのガス交換－				
到達目標	国家試験合格	評価方法	定期試験			

科目名	保健(人体の構造と機能Ⅱ)	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	1年生通年	担当者	山本・西・松本・上原	時間数	90時間	3単位
教育目標	解剖学授業で得た知識を基として、摂取された栄養素の体内でのエネルギー変換や生物代謝による生命の維持活動を学ぶ。さらに、生命活動をする上での生物体内におけるビタミン、ホルモンやミネラルの働きを学び、生物としての免疫機能や恒常性を理解し、「健康な身体」、「健全な皮膚と頭毛」等の知識を深め、将来の理容・美容技術の向上を図ることを目標とする。					
授業概要	Ⅰ：消化器官とそのはたらき－消化と食物代謝－Ⅱ：体内水分の調節と水分の排泄Ⅲ：内分泌器官系のはたらきとホルモンの調節機構Ⅳ：免疫と耐性Ⅴ：運動・休養・労働・睡眠					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	Ⅰ：消化器官 消化と食物の吸収	口腔、咽頭、食道と胃腸の役割、十二指腸、空腸、回腸のそれぞれのはたらき				
3～4	消化器系器官と消化液	肝臓、胆嚢、胆汁と脂質について				
5～6		すい臓、消化酵素、消化吸収とは、大腸、結腸、直腸について				
7～8	Ⅱ：泌尿器官とそのはたらき	腎小体と尿細管、尿管、膀胱、尿道と尿排泄				
9～10		腎小体、尿細管による糖、水分の再吸収				
11～12	Ⅲ：内分泌器官とそのはたらき	内分泌腺とホルモン、脳下垂体、すい臓（外分泌と内分泌）甲状腺、上皮小体（副甲状腺）				
13～14	外分泌腺と内分泌腺	副腎皮質、副腎髄質、精巣、卵巣－ステロイド性ホルモン－ストレスと自律神経－交感神経と副交感神経－				
15～16	Ⅳ：環境と生体 免疫とは	生体の恒常性－生理的適応、免疫的適応－				
17～18		免疫と生体防御、抗原・抗体反応、アレルギー				
19～20	Ⅴ：運動と休養	エネルギー代謝と栄養素、労働、運動				
21～22	自律神経、交感神経、副交感神経のはたらき	疲労、休養、睡眠				
到達目標	国家試験合格	評価方法	定期試験			

科目名	化粧品化学①(化学)	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	2年生通年	担当者	松本・山口・社川	時間数	60時間	2単位
教育目標	現在の理美容には様々な化学物質や化学反応が応用されている。従って理美容師には、理美容に応用されている化学の知識や知見は不可欠である。そこで、本授業では、理美容と関連性のある化学の基礎知識を理解することを目標とする。本目標を達成するために、化学の基礎から授業を行うが、特に、理美容と関連が深い生体成分の働きや化粧品素材の知識を習得する上で必要となる物質の性質や化学反応の基礎知識の教授を重点的に行う。また、化学は自然現象・生命現象・環境問題などに深く関係している。すなわち、日常生活のみならず、芸術的な造形のモチーフとなる構造も化学の視点から見ることにもできる。このように、様々な形で化学が活用されていること・活用できることを理解することも目標とする。					
授業概要	理美容や芸術との関連性を重視した授業を行うことを予定している。①「化学の基礎」（1回－4回）：化学を学ぶにあたり、必要となる基礎知識を教授し、化学的な視点から物質を捉えることを目指す。②「無機素材」（5回－6回）、③「有機素材」（7回－12回）および、④「天然素材」（13回－16回）：基本的な純物質の名称、化学構造および、その性質や機能の紹介に加え、化粧品（化粧品など）への応用されている物質について、名称、化学構造および、その性質や機能を教授する。⑤「混合物の化学」（17回－22回）および⑥「化学反応と美容」（23回－26回）：美容に応用されている化学反応や混合物の性質などについて、化学的な知見や視点に基づいて紹介する。⑦「化学と形」（27回－29回）：自然の作り上げた様々な造形について、化学の視点から紹介する。下記の授業計画には、各授業の概要と学習上重要なキーワードを掲載した。					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	化学の基礎1 物質の構成と元素	①物質の定義・分類および存在状態について理解する。②物質を構成する原子とその基本構造について理解する。③原子の安定化とイオンについて理解する。[キーワード] 混合物・純物質・単体・化合物・元素・原子・陽子・中性子・電子・イオン				
3～4	化学の基礎2 化学結合と化学反応	①物質を構成する原子間の化学結合について理解する。②化学反応と化学平衡の基本的な考え方について理解する。③物質の定量的な扱いについて理解する。[キーワード] イオン結合・共有結合・金属結合・分子・結晶・化学反応式・質量保存則・可逆反応、不可逆反応・化学平衡・原子量・モル				
5～6	無機素材 単体と無機化合物	①水やアンモニアのような非金属物質の性質について理解する。②金属原子および金属化合物の性質や用途について理解する。③無機化合物の命名法について理解する。[キーワード] 無機物質・非金属・希ガス・金属・合金・酸化物・イオン化傾向・無機顔料（白色顔料・着色顔料・体質顔料）				
7～8	有機素材1 有機化学の基礎と炭化水素	①有機化学の基盤となる炭化水素の名称と構造の関係を理解する。②化学式と構造式の違い（異性体）について理解する。③炭化水素の由来、性質や用途について理解する。[キーワード] 炭化水素・アルカン・アルケン・アルキン・異性体・単結合・二重結合・三重結合				
9～10	有機素材2 官能基をもつ有機化合物	①有機化合物を特徴づける官能基の種類と構造について理解する。②官能基を含む有機化合物の名称の特徴を理解する。③化粧品等に使用される様々な官能基をもつ有機化合物の機能について理解する。[キーワード] アルコール・アルデヒド・ケトン・カルボン酸・アミン・エステル・多価アルコール・高級アルコール・脂肪酸				
		①芳香族の化学的な特徴と構造について理解する。②高分子の合成法と化学的な特徴について理解する。③日常生活および美容に使用されている様々な芳香				

11~12	有機素材3 芳香族と高分子	族と高分子の特徴をについて理解する。 [キーワード] 芳香族・ベンゼン・二置換芳香族 (オルト-, メタ-, パラ-) ・単量体・高分子・重合・縮合・熱可塑性・熱硬化性。
13~14	天然素材1 脂質と糖類	①脂質の基本構造、脂質の生体内や香粧品における機能について理解する。②糖の基本構造、糖の生体内や香粧品における機能について理解する。③脂質や糖から誘導される物質の機能について理解する。 [キーワード] 脂質・油脂・トリグリセリド・ロウ・脂肪酸・酸化防止剤・単糖・二糖類・多糖
15~16	天然素材2 アミノ酸とタンパク質	①アミノ酸とアミノ酸から構成されるタンパク質の化学構造および機能について理解する。②毛髪の化学的な構造と毛髪の代表的な構成成分について理解する。 [キーワード] アミノ酸・ペプチド・単純タンパク質・複合タンパク質・酵素・ケラチン・シスチン・シスチン結合・イオン結合・水素結合・メラニン
17~18	混合物の化学1 溶液・酸とアルカリ	①混合物の特徴について理解する。②代表的な混合物である水溶液の構成および定義について理解する。③酸と塩基が水溶液中で示す特徴について理解する。 [キーワード] 溶液・水溶液・溶質・溶媒・水和イオン・非水和イオン・溶解度・飽和溶液・弱酸・強酸・弱塩基 (弱アルカリ) ・強塩基 (強アルカリ)
19~20	混合物の化学2 水素イオン指数・酸とアルカリの反応	①酸とアルカリが関与する化学反応について理解する。②水溶液の定量的な扱い (濃度) について理解する。③水溶液中に生じた水素イオン定量的に扱いについて理解する。 [キーワード] 中和反応・加水分解反応・塩・けん化・モル濃度 (mol/L) ・pH (水素イオン指数) ・水のイオン積・pH指示薬
21~22	混合物の化学3 界面活性剤とコロイド	①界面活性剤の化学構造の特徴とその性質について理解する。②界面活性剤のつくる特異な構造について理解する。③様々な物質が不均一に存在する混合物 (コロイド) について理解する。 [キーワード] 界面活性剤 (陰イオン・陽イオン・両性イオン・非イオン) ・コロイド・乳化・懸濁・分散層・分散媒・コロイド・ミセル・ゾル・ゲル
23~24	化学反応と美容1 酸化と還元	①酸化反応と還元反応の定義や特徴について理解する。②パーマメントウェーブ剤の毛髪への作用について理解する。③燃焼と消火の原理について理解する。 [キーワード] 酸化・酸化剤・還元・還元剤・燃焼・パーマメントウェーブ第1剤・パーマメントウェーブ第2剤
25~26	化学反応と美容2 化学構造と色	①有機化合物の共役二重結合と吸収波長の関係について理解する。②香粧品に利用される有機合成色素や紫外線吸収剤について理解する。③カラーリング、ブリーチの原理について理解する。 [キーワード] 共役二重結合・吸収波長・有機合成色素・紫外線吸収剤・酸性染料・酸化染料 (p-フェニレンジアミン) ・過酸化水素
27~28	自然造形の化学1 分子構造の対象性	①分子や結晶の対象要素 (回転軸・対称面・対称心・回映軸・掌性・反掌性等) について理解する。②分子や結晶をひとつの造形物として、化学構造の中にある美と芸術性について理解する。 [キーワード] 回転軸・対称面・対称心・回映軸・掌性・反掌性
		①分子が秩序化して自発的に形成される自己組織化について理解する。②自然

29～30	自然造形の化学2 化学物質の組織化	界に形成される形やパターンのできる環境について理解する。③化学と芸術と美容の接点について理解する。 [キーワード] 自己組織化・閉鎖系・開放系・カオス・フラクタル・体表模様・BZ反応	
到達目標	国家試験合格	評価方法	期末試験

科目名	化粧品化学②(化粧品)	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	2年生通年	担当者	松本・山口・社川	時間数	60時間	2単位
教育目標	化粧品に用いられている原料の化学的性質や配合目的などについて学び、各種化粧品の有用性、安全性および使用目的について理解を深めます。					
授業概要	化粧品概論、化粧品原料、基礎化粧品、メイクアップ化粧品、毛髪用化粧品、特殊化粧品の項目に分けて解説します。化粧品化学の理解を助け学生の授業参加を促すため、各自が日頃使用している化粧品のデータを電子メールによりレポートとして提出してもらいます。美容師として業務上使用する化粧品だけでなく、レポートとして提出されたデータも引用しながら授業を進め、化粧品に表示されている配合成分の化学的性質や配合目的などについて学びます。					

授業計画

回	項目	内容
1～2	化粧品概論 化粧品と薬事法	化粧品の歴史と定義について 化粧品と薬事法との関連について
3～4	化粧品原料 1 水性原料 油性原料	化粧品に使用されている水性原料の種類と性質、および保湿剤について 化粧品に使用されている油性原料の機能および種類と性質について
5～6	化粧品原料 2 界面活性剤	界面活性剤の基本的性質について 化粧品に使用されている界面活性剤の種類について
7～8	化粧品原料 3 高分子化合物 香料	化粧品に使用されている高分子化合物の種類と用途について 化粧品に使用されている香料の役割、種類および芳香製品について。
9～10	化粧品原料 4 色材	化粧品における色材の重要性および効果と役割について 化粧品に使用されている色材の種類と性質について
11～12	化粧品原料 5 その他の配合成分	防腐・殺菌剤、酸化防止剤について 紫外線吸収剤、収れん剤およびホルモン剤、ビタミン剤、アミノ酸類等について
13～14	基礎化粧品 1 皮膚洗浄剤 化粧水	基礎化粧品の使用目的と作用、および皮膚用洗浄剤の種類と機能について 化粧水の種類と機能について
15～16	基礎化粧品 2 クリーム・乳液	クリーム・乳液の皮膚への作用、およびエモリエント剤について クリーム・乳液の種類と機能、分類および必要な性質について
17～18	ベースメイクアップ化粧品	メイクアップ化粧品の種類と機能について ベースメイクアップ化粧品の種類と機能について
19～20	ポイントメイクアップ化粧品	ポイントメイクアップ化粧品の種類と機能について 紅類およびアイメイクアップ化粧品の種類と機能について
21～22	毛髪用化粧品 1 シャンプー剤・ リンス剤・スタイリング剤	頭皮と毛髪について、およびシャンプー剤の種類と機能について リンス剤・スタイリング剤の種類と機能について
23～24	毛髪用化粧品 2 パーマメントウェーブ用剤	パーマメントウェーブの原理について パーマメントウェーブ用剤の種類
25～26	毛髪用化粧品 3 染毛剤	染毛剤を中心に、ヘアブリーチ剤等の種類と機能について
27～28	その他の化粧品	サンケア製品の種類と機能について 美白化粧品、制汗・脱臭剤、ニキビ用化粧品の種類と機能について
29～30	筆記試験	
到達目標	国家試験合格	評価方法 期末試験

科目名	文化論①(歴史と文化)	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	2年生通年	担当者	坪山・社川	時間数	60時間	2単位
教育目標	<p>古来日本人が他国から受容した技術や表現技術をいかに吸収し、自国の美容文化として昇華させていったのか、わが国における理美容の歴史と文化の形成について考えることを目標とする。そして国際人として活躍するために、主に髪型・服装等の視点から日本の文化、歴史の理解を深める。また、接客において、年齢にかかわらず、多くの人とコミュニケーションができなければならないが、髪型にまつわる話題作りとして、日本の基本的伝統文化の知識を習得する。本科目では祖先から継承してきたわが国の美意識の源流と周辺諸国における美意識を探究することで、その共通性や相違点を受講生自らの視点で感じ取ってもらいたいと思う。後半は西洋の美意識についてもふれる。</p>					
授業概要	<p>大陸文化の受容によって日本の文化が誕生したといえる。日本の歴史のみならず大陸の歴史を通してながら、どのように日本の風俗が出来上がったかを学ぶ。</p>					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	中国の装飾史と日本の歴史の概要	古代のファッション 鏡について				
3～5	衣襟・衣裳、袍袴・裙様式と結髪	大陸文化の影響 はきもの・冠について				
6～8	束帯、袴様式と結髪	独自の国風文化の発達 仏像のみわけ方				
9～11	上下様式と結髪	甲冑について学ぶ 武士の世界				
12～13	南蛮風俗と結髪	近世初期風俗画を通して、屏風、帯、髪飾、縮毛				
14～15	小袖様式と結髪	浮世絵を通して、江戸中期、後期の風俗を学ぶ				
16～17	和洋折衷様式と結髪	身分階級から時代の表現へ 西洋文化の流入による風俗				
18～19	新日本髪展示、日本髪のデッサン	日本の風俗である新日本髪を展示する				
20～21	現代の理美容における装飾文化Ⅰ	造形文化と美意識①				
22～23	現代の理美容における装飾文化Ⅱ	造形文化と美意識②				
24～25	現代の理美容における装飾文化Ⅲ	造形文化と美意識③				
26～27	現代の理美容における装飾文化Ⅳ	造形文化と美意識④				
28～29	現代の理美容における装飾文化Ⅴ	造形文化と美意識⑤				
30	まとめ					
到達目標	国家試験合格	評価方法	期末試験			

科目名	文化論②(デザイン)	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	2年生通年	担当者	坪山・社川	時間数	60時間	2単位
教育目標	お洒落を含む全ての生活空間が高級化し、より格調高い美意識が求められるようになった。この授業では、人体を中心に、髪、服飾等の美的原理、さらに古典美の基本などを学びこれからの理容・美容のあり方について考察する。また、講義に平行して、簡単なスタイル・デッサンを行い美しい造形について理解を深める。					
授業概要	古代から現代までの理容・美容の歴史を振り返り、建築、絵画、彫刻等の芸術と美容の関係を分析し、その中にある美的原理を知る。後半では、ヘアデッサンの基礎練習と、色々な要素からヘアデザインへの転換等をしデッサンで表すことを演習する。					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	古代の理美容	講義：古代エジプトと古代ギリシア・ローマ				
3～4	中世の理美容	講義：15世紀・16世紀				
5～6	近代の理美容	講義：17世紀～19世紀				
7～8	現代の理美容	講義：20世紀				
9～10	理美容デザイン演習1	顔のバランス	：顔の描き方			
11～12	理美容デザイン演習2	理容・美容における点の要素	：毛髪の描き方			
13～14	理美容デザイン演習3	理容・美容における線の要素	：ヘアデッサン1			
15～16	理美容デザイン演習4	理容・美容における色の要素	：ヘアデッサン2			
17～18	理美容デザイン演習5	理容・美容作品写真からのデザインの把握とデッサン①				
19～20	理美容デザイン演習6	①からデザイン展開				
21～22	理美容デザイン演習7	①からデザイン展開				
23～24	最終作品制作	最終作品のデザインコンセプトの決定				
25～26	最終作品制作	作品制作				
27～28	最終作品制作	作品制作				
29～30	最終作品制作	作品制作				
到達目標	国家試験合格	評価方法	期末試験			

科目名	運営管理	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	2年生通年	担当者	高橋・山本	時間数	30時間	1単位
教育目標	<p>全国の美容サロン数は毎年増え続けています。一方、日本の人口は今をピークにこれからは減少していきます。つまり、美容業界は今後ますます競争が激化していくわけです。そのような状況の中で、今後サロンが生き残っていくためには、経営・マネジメントの知識がどうしても必要となってきます。この講義では皆さんが将来サロンを持つときに、あるいは店長となって店舗を管理する立場になったときに必要となる経営・マネジメントの基礎を学びます。しかし、この経営・マネジメントの知識は決して経営者や店長となってはじめて必要となるものではなく、実はサロンに就職したときからすでに必要となってくるものなのです。競争が厳しい美容業界においては、経営・マネジメントの視点を持つこともこれからの美容師のあるべき姿です。今のうちからしっかりとビジネス感覚を身につけておいてください。</p>					
授業概要	<p>美容をビジネスの観点から見ていきます。サロン経営、店舗運営に直結する内容を講義するとともに、最新の美容業界の動きもつねにチェックしていきます。</p>					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	オリエンテーション	授業の進め方と心構えについて				
3～4	美容業の現状について	現在の美容業はどのような状況なのか				
5～6	経営とは何か？	経営・マネジメントの視点がなぜ必要か				
7～8	労務管理1	理容美容業と労務管理 / 労務管理に関する知識				
9～10	労務管理2	理容美容業と人事管理 / 美容業と社会保障制度				
11～12	経営管理1	企業の形態 / 美容業と料金				
13～14	経営管理2	理容美容業と経理 / 理容美容業の簿記と税務				
15～16	マーケティング1	なぜマーケティングを学ぶのか / マーケティングの基本的な考え方				
17～18	マーケティング2	マーケティング戦略 / 競争とポジショニング				
19～20	マーケティング3	理容美容業のためのマーケティング / 戦略の立て方				
21～22	顧客満足経営	顧客満足経営とはどのような経営なのか / 売上志向から顧客志向へ				
23～24	サロン起業1	サロンの起業とはどのようなものか / サロンの起業には何が必要か				
25～26	サロン起業2	繁盛店を考えてみよう1				
27～28	サロン起業3	繁盛店を考えてみよう2				
29～30	美容ビジネスの将来	今後の理容美容業はどうなっていくのか				
到達目標	国家試験合格	評価方法	期末試験			

科目名	外国語	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	2年生通年	担当者	Nicholias Akingbade	時間数	30時間	1単位
教育目標	外国語を通して意思疎通を図り、お互いの考えを理解する。					
授業概要	外国語を身近なものにするため、具体的事例に基づいて講義を行う。					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	英会話	自己紹介と挨拶				
3～4						
5～6		予約のないお客様を迎える				
7～8		電話予約を受ける				
9～10		予約のお客様を迎える				
11～12		料金を頂く				
13～14		カッティング（ヘアスタイルの注文を伺う①）				
15～16		カッティング（ヘアスタイルの注文を伺う②）				
17～18		カッティング（ヘアスタイルの注文を伺う③）				
19～20		シャンプー				
21～22						
23～24		パーマ（スタイルの注文を伺う・部分パーマ）				
25～26		シェービング				
27～28						
29～30		理容室（用語集・表現集）				
到達目標		人とのつながりを外国語を通して体感する	評価方法	期末試験		

科目名	総合芸術（色彩）	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	2学年通年	担当者	山口・坪山	時間数	90時間	3単位
教育目標	色彩の基本的な理論を学ぶことによって、色彩表現の基礎を養う。また、色彩検定への対応も行いながら色名や配色、色のイメージなど色彩の知識の幅を広げ、感性を高める。					
授業概要	色は人間の心や行動に様々な影響を与えている。その色のはたす役割や性質を理解し、色鉛筆やポスターカラー、カラーチャートなど、実際に色を使いながら学習する。					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	色彩学について	人間の歴史と色彩				
3～4	スペクトルと三原色	色とスペクトルとの関係および色料、色光の三原色				
5～6	補色	混色と補色				
7～8	色名	JIS系統色名と慣用色名からオリジナル色作成へ				
9～10	カラーシステム	マンセルカラーシステムとPCCS（カラーチャート作成）				
11～12	トーン	色彩のトーン（カラーチャート作成）				
13～14	カラーシステムのまとめ	テスト形式でカラーシステムの理解を深める				
15～16	トーン配色	トーンを利用した配色				
17～18	色彩調和と配色	基本的な調和配色法からの配色作成				
19～20	色彩心理とイメージ	色が心身に与える作用とカラーイメージデータ				
21～22	イメージからの色彩構成1	さまざまなイメージを色彩構成で表現する				
23～24	イメージからの色彩構成2					
25～26	イメージからの色彩構成3					
27～28	まとめ	まとめ				
29～30	テスト	テスト				
到達目標	色彩の基礎理論を身につけ、知識の幅を広げる。	評価方法	期末試験			

科目名	総合芸術（デッサン）	科目区分	必修	授業形態	講義	
対象学年	2年生通年	担当者	坪山・山口・菊池・上原・川村	時間数	90時間	3単位
教育目標	美容を造形表現と捉え、そのために必要な基礎造形力・表現力と、表現のための知識を身につける。					
授業概要	「デッサンが描ける人」しかヘアデザイン画は描けません。メイクアップも「キレイに描ける人」が評価されます。ヘアデザイナーやメイクアップを目指すのであれば、デッサンは必須です。「ヘアスタイルを描ける」ようになることを目標にデッサンを学びます。					
授業計画						
回	項目	内容				
1～2	デッサン	オリエンテーション				
3～4						
5～6						
7～8						
9～10						
11～12		石膏デッサン マルス胸像 またはヘルメス胸像				
13～14						
15～16		点と線の説明と応用				
17～18		面とかたちの説明と応用				
19～20		美容（ヘア・メイク・ファッション等）の平面デザイン基礎技法				
21～22						
23～24	平面デザインの技法1					
25～26	平面デザインの技法2					
27～28	平面デザインの技法3					
29～30	平面デザインの技法4					
31～32	立体	形と色を立体として造形表現できるよう実技を通じて学ぶ。				
33～34		説明・作品鑑賞				
35～36		立体構成の基礎 「平面から立体へ1」形と構図				
37～38		立体構成の基礎 「平面から立体へ2」形と色彩				
39～40		立体構成の基礎 「平面から立体へ3」形と素材				
41～42	立体構成の基礎 「平面から立体へ4」形と立体空間・作品完成					
43～44	美術史	映像資料を多く用い、世界の一流の美術品に親しむことにより、芸術性を養う。12月の海外研修旅行（美術館・博物館見学）にも対応する。				
45～46						
47～48						
49～50	絵画	細密描写 鉛筆				
51～52		構成 鉛筆、木炭、ペンなど				
53～54						
55～56						
57～58		自由表現 鉛筆、木炭、ペンなど				
59～60						
到達目標	基礎的な造形力、表現力を修得し、美容に応用できる能力を身につける。	評価方法	期末試験			